

## 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第3回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第3回)
2	日	時 令和8年3月16日(月)午後1時30分から午後3時30分まで
3	会	場 安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出	席 者 佐原委員長、小山田副委員長、降旗委員、東本委員、井藤委員、北澤委員、高橋委員、安田委員、米山委員、帯刀委員、唐澤委員、吉澤委員、柳原委員、北村委員、藤本委員、内川委員
5	市側出席者	高山農政課長、山岸農業政策担当係長、農業政策担当御子柴主査、その他農政課、耕地林務課及び農業委員会所属の事業担当係長等
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和8年4月2日(木)

### 協 議 事 項 等

#### 1 会議の概要

- (1) 開会
  - (2) 委員長挨拶
  - (3) 協議
    - ・第4次農農計画アンケート結果報告について
    - ・第4次農農計画骨子案の説明について
  - (4) その他
  - (5) 閉会
- 以下、協議の特記事項について記載する。

#### 2 協議録

○第4次農農計画アンケート結果報告について

●事務局より農業者アンケートについて説明

##### 【質疑・意見等】

- ・作付けしていない農地について個人農家の半分以上が作付しない意向とあるが、委託をせず誰も農地を作付けしていない農地ということか。それとも委託していて自分では作付けしていない農地ということか。
- ・所有農地で委託せず、自身で耕作もしていない土地ということである。
- ・法人は借りて耕作しているところが多いと思っていたが、3割ほどあるということか。  
→(事務局)個人と同様に借りている場所ではなく、所有していて作付けしていない土地があるということになる。今回のアンケートでは理由まで確認できていない。

●事務局より集落営農組織アンケートについて説明

【質疑・意見等】

- ・ 農業者アンケートで回答してくれている方は比較的意欲のある方とされている。満足度については前回より上がっているとなっているが、農業をやめたいという回答も多く矛盾が生じている。これは農業をやりたいけれども高齢化でできないということなのだろうか。  
→（事務局）仰るとおり高齢化が農業をやめる要因の1つになっていると思われる。農業をやめたい理由についてアンケートにて確認できていないが、結果として意欲はあるものの10年後はどうなっているか分からないがやめたいという回答が31%となっている。
- ・ 集落営農組織については、定年後に声がかかり加入することがあると聞いたことがある。定年後であればある程度年金収入等あるが、若い人が加入しても農閑期に仕事がなく収入面で続かないという話を聞く。この辺りはどうか。  
→（事務局）それぞれ組織ごとに課題はあると思われるが、農閑期の収入についてや給与体系面については今後ヒアリングをとおしてどういった現状か確認していきたい。
- ・ 作業平準化により冬場にも仕事をつくる等の工夫で雇用を継続している。また、作物の品目、品種を考えながら経営している。
- ・ 稲作がメインだが、大豆の選別作業や除雪作業、機械整備などを農閑期に行っている。

●事務局より新規就農者アンケートについて説明

【質疑・意見等】

- ・ 新規就農者から話を聞く中で、就農後に地元の農家さんから期待を込めてどんどん農地を任せただけだが、急な規模拡大はキャパオーバーになってしまうことがある。地元農家の間でも相談しながら調整していけるとよいと思うし、次の課題だと思う。
- ・ 里親の立場で就農者を見てきたが、やはり経営面や収入の不安があるのは当然である。大事なことは経営のノウハウを相談できる場所がしっかりあるか。里親含めた先輩農家や農協などの不安なことを相談できる場所と連携していくことが重要。そういった体制づくりが大切だと思う。
- ・ 近年の気候変動の影響が非常に大きい。そういったリスクについてしっかり頭に入れておかないといけない。また、就農の補助金がなくなった後に経営が厳しくなるので農家、行政、JA等と相談していく必要がある。特に施設園芸の資材は2倍近くになっている。手出すのがかなり難しくなっている。
- ・ JA あづみでは定期的な訪問をとおして関係部署と連携し、経営サポートを行っている。
- ・ JA 松本ハイランドでは、定年後の就農者支援の説明会を3月に行う。資材高騰の解決が課題となる。少しでも農業に興味をもってもらえるよう身近な直売所の出荷を目指して相談に乗っていく。
- ・ 農家民泊をやっていると農業をやりたいや移住したいという相談が多い。希望する農業の規模や品目は様々であるが、今後相談があった場合委員会のご縁で紹介してもよいか。
- ・ 紹介してもらってかまわない。
- ・ 営農相談、農地はある程度探すことができるが、住む場所の相談はなかなか難しい。そういった情報は地元の人からの空き家情報や伝手で広がっていく。そのため、地域で顔を覚えてもらう、人間関係を築くということが大事だと感じる。

○第4次農農計画骨子案の説明について

●事務局より説明

【質疑・意見等】

- ・物産センターでは出荷者を安曇野市全体から募集するなど規模広げて対応している。
- ・観光面で見ても域内調達率の向上、持続可能であることが必要。安曇野ブランドとして付加価値を高めることで、都市部のお客さまにも喜ばれ、関係人口を外の人からつくっていくことができる。「守る」につながるのではないか。
- ・安曇野市は農業が景観に貢献している。農道や田んぼにゴミを捨てる人がいるほか繁忙期のトラクターの土について苦情を言う人がいる。トラクターで道路に上がる際に綺麗にするように心がけているが限界がある。そういった農業の事情について消費者や観光客の方にも知ってもらいたい。繁忙の時期とかは例えば防災無線等を用いて、非農家の方に理解をしてもらいたい。
- ・アンケートにも農業収入が不足ややや不足等回答があるように農業よりも会社に勤めているよりも収入が安定するという一方で、皆さん自分でやるより大規模農家に貸したほうがよいになってしまうのでは。
- ・ブランドについて安曇野市はわさびが有名。例えば自分でも栽培しているケールなど珍しい野菜もそれくらい知名度を高めたいと思っているが実際は難しい。
- ・今後の計画策定として、第3次やってきたことをどう評価するのか。結果として評価が良く今後さらに伸ばすべきものや課題として改善するものの仕分けがこれまでも行われていると思う。さらにそこに「時代の変化」を踏まえて考えていく必要がある。現状どういった状況か確認したい。  
→（事務局）第3次の振り返りについては、施策ごとに目標があり、毎年評価を行っている。その中で課題や評価できるポイントを精査して、第4次の計画に反映させていく予定である。
- ・先ほど出た意見に関連する部分について、やはり市外からきた方はなかなか農業への理解が乏しく、苦情などの声が大きくなっている。改めて農業はこういうものという周知を図る農政活動があるとよい。農家はできるだけそういった声に対応しているため、外からきた人達も集落に入ってもらいなど地域と関わりを持ってもらい、地元農業への理解へつながるとよい。第4次の施策の柱の部分に地域に根付くということを入れてくれるとよいのでは。
- ・安曇野市という土地を選んでくる方の中には農業に興味ある方も多い。家庭菜園等の小規模から狭小地や中山間を使ってもらい、農業を実際に体験してもらうことが大切ではないか。時代の変化や多様性を考えつつ農業を活性化していきたい。

●協議事項については全て議案通り承認が得られた。

#### 4 その他

- ・事務局より世界農業遺産の概要について説明。
- ・今後の日程についてお知らせ。
- ・本年度の委員会は今回で最後。
- ・次回、令和8年度第1回目の開催は令和8年6月開催予定。詳細は、別途、通知にて案内。第3次農農計画令和7年度事業の点検・評価及び第4次農農計画の基本計画素案について協議いただく予定。

以上